

|  |    |                |
|--|----|----------------|
|  | 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|--|----|----------------|

|                |                     |    |            |
|----------------|---------------------|----|------------|
| ○事業所名          | 児童発達支援・保育所等訪問支援まめのき |    |            |
| ○保護者評価実施期間     | R7年 1月 10日          |    | ～          |
|                |                     |    | R7年 2月 10日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)              | 14 | (回答者数)     |
|                |                     |    | 7          |
| ○従業者評価実施期間     | R7年 1月 10日          |    | ～          |
|                |                     |    | R7年 2月 10日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)              | 9  | (回答者数)     |
|                |                     |    | 9          |
| ○訪問先施設評価実施期間   | R7年 1月 10日          |    | ～          |
|                |                     |    | R7年 2月 10日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数  | (対象者数)              | 11 | (回答者数)     |
|                |                     |    | 8          |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R7年 2月 27日          |    |            |

○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|--|---|--|
| 1 | 各関係機関連との連携体制の構築                            | 毎回、保護者や保育所等へのフィードバックを行っています。同事業所に通所する児童のみであるので、そこでの気づきや支援の実施など日々の療育支援への反映も容易です。 | 必要に応じてケース会議等を開催したり、連携体制としては、保護者だけでなく保育所等とも信頼関係を築き、包括的な支援を目指していきます。 |
| 2 | 専門的な支援体制                                   | 様々な職種の訪問員を配置しており、それぞれの専門性は持ちながらもその子どもや環境にあった支援を心がけています。                         | 訪問先の思いを大切にしながら、子どもの最善を常に考えて支援していきます。                               |
| 3 | 制度にとらわれない支援                                | 子どもや事情に応じて、登校支援や自宅訪問を行っています。  | 本当の意味での訪問支援として、子どもや家庭だけでなく、保育所等の支援も継続していきたいと思えます。                  |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                               | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定されているが、定期的な保護者への周知・説明が不足している。 | 策定済みでマニュアル化されており、法人内で事業所から担当職員を決定し、会議研修を行い、保護者への周知も行ってはいますが、機会が少ないと思われま。 | ホームページ、事業所通信、法人通信、各家庭のLINEグループでの周知徹底や見える化を意識した活動を行ってきたいと思えます。 |
| 2 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果の発信について、保護者の満足度が低い。       | 訪問支援や活動のみにフォーカスした情報発信が少ないと考えられます。  | ホームページ、事業所通信、法人通信、各家庭のLINEグループでの周知徹底や見える化を意識した活動を行ってきたいと思えます。 |
| 3 |  |  |   |